

きずな

第19号

2020年11月

<発行>
泉南市人権啓発
推進協議会

泉南市は1970年 議会、岸和田人権擁護委
(昭和45年) 7月1日 員協議会泉南市地区委員
に市制を施行し、令和2 会、泉南市事業所人権推
年に市制施行50周年を 進連絡会の各委員長も市
迎えました。長年にわた 長より感謝状をいただき
り泉南市の市政発展に尽 ました。
力し、地域社会に対し多 贈呈式の後は市長と
大な貢献をされてきた団 の懇談が行われました。
体へ、その功績に敬意を 活動についての労いや激
表し、市長より感謝状の 励の言葉、泉南ロングパ
贈呈が行われました。 ークの話題など、和気あ
新型コロナウイルス感 いあいとした時間となり
染症拡大防止のため、5 ました。
0周年記念式典が中止に 私たち泉南市人権啓発
なり、市役所本館にて複 推進協議会は、これから
数回に分けて贈呈式が行 も行政や関係団体と協働
われました。 しながら、地域とのつな
私たちが泉南市人権啓発 がりを大切に、人権の大
推進協議会からは南会長 切さを伝える活動を続け
が出席しました。また、 ていきます。今後ともみ
新家、雄信、樽井、一丘、 なさまのご支援・ご協力
砂川、西信達、東、信達 をよろしくお願いしま
の各校区人権啓発推進協 す。

市長より感謝状を いただきました

信達校区

泉南市人権啓発推進協議会

雄信校区

新家校区

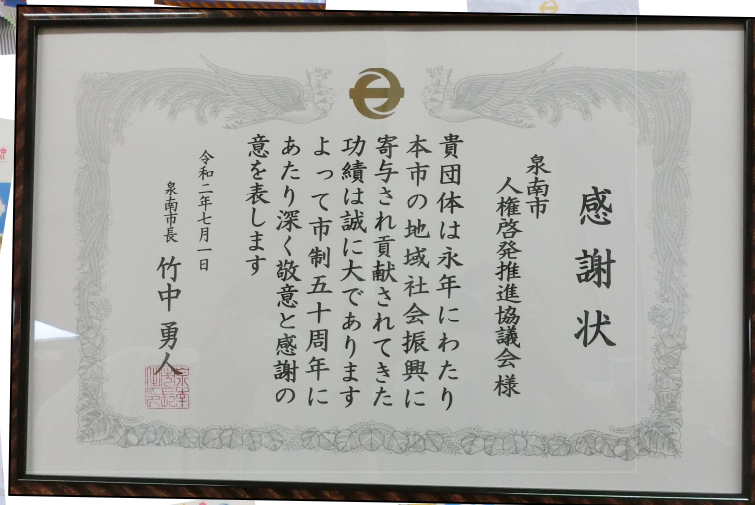
西信達校区

樽井校区

岸和田人権擁護委員協
議会泉南市地区委員会

砂川校区

一丘校区



コロナ禍で感じたこと

ピンチからの大逆転！ 藤井 聡太2冠、自分で考える強さ



4月7日に緊急事態宣言が出されて以来、私たちの生活が一変しましたが、振り返れば、この間最善を尽くすことが出来たか、反省する人も多いと思います。そこで今回、将棋の最年少棋士・藤井聡太七段(当時)の例を紹介し、我々がとるべき行動を考えたと思います。

藤井七段は愛知県瀬戸市在住、普段は東京か大阪の将棋会館で毎月5局ほど対局し、対局の無い日は名古屋市の学校に通う高校3年生で、彼以外には高校はおろか大学生もいません。緊急事態宣言以降、遠距離の移動が出来なくなり藤井七段の対局は全て延期、高校も休みで自宅で将棋の研究をする毎日でした。一方大半の棋士は首都圏か京阪神在住で、エリア内の棋士との対局は予定通り進行、対局の無い日は仲間と研究会をするなど、対局ペースは落ちても、例年とさほど変わりはありませんでした。緊急事態宣言解除後、それまで藤井七段が勝ち進んで

いた複数の棋戦が一気に再開、例を見ないハードスケジュールになりました。具体的には、4月10日を最後に6月2日まで2か月近く対局無し、再開後は6月9局、7月10局と2か月で19局、地元愛知での1局以外は全て移動を伴う対局でした。それでもこの間の成績は16勝3敗で勝率8割4分2厘、さらに驚くべきは勝利を収めたその対戦相手です。

①銀河戦では、約170名のプロ棋士の上位10人にある順位戦A級在籍の稲葉陽八段と羽生善治九段を連破し決勝トーナメントに進出

②タイトル戦の棋聖戦では、6月2日の挑戦者決定トーナメントの準決勝で前名人でA級の佐藤天彦九段を破り、中一日おいた6月4日の決勝で叡王と王座、2つのタイトルを保持する永瀬拓矢2冠も撃破、返す刀で臨んだ6月8日の渡辺明3冠(棋王・王将・棋聖を保持)との5番勝負、研究も十分出来な

いハンを逃がし、緒戦勝利、その後3勝1敗で見事史上最年少でタイトルを奪取しました。

③更に、これもタイトルの一つ王位戦では、挑戦者決定トーナメント決勝で永瀬拓矢2冠に勝ち挑戦権獲得、4連勝で木村一基王位からタイトルを奪取、またもや最年少で2冠と八段昇段を果たしました。

プロ棋士は勝てば勝つほど実力上位者との対局が増えるので、一流と言われる上位1割の中でさらに勝率6割を超える数人が超一流、このあたりでないタイトルホルダーやA級棋士にはなれません。3年前、藤井棋聖が15歳の中学生棋士としてデビュー直後から29連勝し連勝記録を更新しましたが、対局相手は若手や中堅、やや力の落ちたベテランが多かったのも事実です。その後も順調に勝星を積み重ね昇段してきましたが順位戦は上から3番目のB級2

組で名人挑戦は最短でも

3年先、その他のタイトルも挑戦権獲得には届かず、やや足踏み状態でした。そんな中、コロナ禍での対局中断を経て一気にトップギアに入れ、強豪を撃破してきたのです。とりわけ渡辺明3冠との棋聖戦第2局の61手目に指した『3一銀』は、攻めに使う持ち駒の銀を自陣の守りに使う異例の手で、対局中にAI将棋ソフトが4億手読んでも発見出来ず、対局後に6億手読ませたら最善手と判断した事

がワイドショーなどで取り上げられ、AI超えともいわれました。

棋聖獲得後のインタビューで、「対局がない間、じっくりと自分の将棋と向き合えた。序盤の定跡を自分なりに整理した」と語っていました。又この間将棋のソフトを使った研究を深め(愛知在住の棋士が少なく研究する仲間がない)、ソフトの評価や読み筋を見て、自分で理由付けが出来た事を考えるようになった。理由がわからない

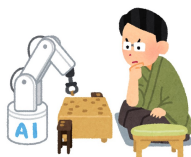
と応用が利かない。ソフトを研究に使うだけでは強くないので、改めて自分で考えるという事は意識しています」とも語っています。

現在『コロナウィルスの感染者やその家族』『最前線に立つ医療関係者』『長距離輸送を伴う物流関係者』へのいわれなき差別が社会問題化し、日常生活や社会活動・経済活動への影響がさらに大きくなり、コロナと共存する社会を目指す動きが加速しています。

将棋で6億手先を読むなど私たちには到底及ばない次元ですが、コロナとの共存について、私たちは人権啓発に携わる者として、AIの出すような効率一辺倒の手ではなく、相手を思いやる次の一手を指したい、そしてその一手は国や自治体任せにすることなく、自分たちで考えたいと思います。

西信達校区
柿本 繁雄

西信達校区
柿本 繁雄



不要不急の外出を控えて、近所への散歩やメダカの観察をしていた。

勤務が二交代制になり、係を半分に分けて、出勤していた。言葉ではなく、文字で相手に伝えることの難しさを改めて感じた。

家に引きこもってテレビや新聞でわからなかった言葉をインターネットで調べたり、それを表にしたりしていた。

新聞のお悩み相談コーナーに載っている相談に対して、自分だったらどう答えるかを考えたりした。

スポーツ中継に観客がないのが寂しかった。

遠くの人に会えないので、電話が増えた。

結婚式や新婚旅行ができなくなった。延期になって残念。

みんな何してた？ 「自粛生活中的過ごし方・感じたこと」

—編集委員に聞きました—

子どもが在宅勤務になったので、家事をやってもらうことができたのがよかった。

SNSで外出している人を見かけると、モヤモヤした。

勤務体制は変わらなかったが、感染対策で各停電車に乗るようにしていた。

ネットでの買い物が増えた。

買い物に行く回数減った。

ロングパークに散歩へ行ったりした。オープンしてからは、外国の人が増えたような気がする。

飲食業界の人など、お仕事している人は大変だろうし、新1年生、最終学年の子どもたち、就活生もまた大変だろうなと思った。

好きな野球や競馬、美術館など行けなくなったが、7月以降は和歌山に市民図書館ができたので、通うようになった。

ドラマや映画、コンサートの映像などスマホで見ていた。YouTubeにもハマった。外出自粛を理由にたくさん見れて楽しかった。

まだまだコロナとの共存は続きますが、みんなで乗り越えましょう！

2020 平和パネル展

泉南市では、昭和59年に非核平和都市宣言を行い、毎年8月を非核平和月間と定めています。今年度は、8月3日(月)～9日(日)まで、泉南市立市民交流センターにおきまして、「平和パネル展～原爆展・戦時下の堺・平和と学び～」を開催しました。

「やっぱり恐ろしいなあ」という声が聞こえてきました。

改めて、原爆(核兵器)の悲惨さや平和の尊さを認識するとともに、戦争を



毎年文化ホールにおきまして「非核平和の集い」を実施していますが、今年度は、新型コロナウイルス感染症のため、文化ホールでの実施は見送り、市民交流センターにおいて「平和パネル展」を開催しました。

会場では、広島と長崎の原爆に関するパネルや戦時下の堺の様子がわかるパネルを展示しました。また、お弁当箱やもんべなど戦時中の生活の一端がうかがえる資料の展示やビデオ上映も行いました。

知らない子どもたちへ引き継いでいく必要があると感じる機会となりました。

また、同時に、7月1日から8月31日まで、市民交流センターのロビーに折り鶴コーナーを設置し、パネル展来場者及び市民交流センターの利用者の方々に、折り鶴をつくっていただきました。

一人一人の平和に対する想いが込められた鶴の数は、目標の千羽を達成することができました。皆さん本当に、ありがとうございました。千羽鶴は、広島にある平和公園内の子ども像に飾ってもらいます。

平和をもとめて ～戦後75年、平和に対する想い～

1945年8月6日 広島に世界で初めて原子爆弾が投下され、甚大な被害を受けました。現在、原爆ドーム(旧産業奨励館)は世界文化遺産に登録されています。

原爆ドームの画像は、国内はもちろんのこと、世界各国の人々にも印象深く脳裏におさめられていると思います。同時に、戦争の恐ろしさ、愚かさも感じられたことと想像しています。

当時、私は小学生でしたから、それほど深い思いはありませんでした。しかし、大人になり、教職についた頃から、平和への願いがだんだん強くなりました。

1993年、6年生の担任になったとき、修学旅行の行先を、これまでの伊勢志摩方面から広島に変更しました。旅行で児童に何を学んでもらう

編集後記

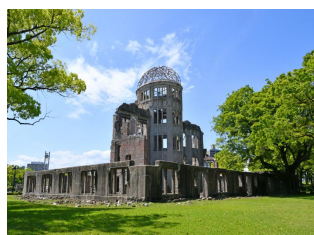
マスク越しの会話はもどかしい。けれど外せない。そんなイレギュラーな状況が長引く中、各分野の方々による涙ぐましい努力、創意工夫に敬意を表したいと思います。我々の身近では、リモートによる会話が拡がり、ライブ配信なども楽しめるようになりました。こんな時だからこそ人と人が繋がりが合うこと、思いを伝えることの大切さを感じずにはられません。

「きずな新聞」も多くの方々の思いを受信、発信する一助となるようますます努力してまいります。皆様方によるたくさんの発信をお待ちしています。

(企画委員会 編集委員)

のが良いのか考えたとき、何よりも平和の尊さを学んでほしかったからです。保護者の方々のご理解とご支援を頂き実施することができました。

広島平和公園資料館見学で、今でも強烈に印象に残っていることがあります。その一つは、一升瓶がまるで飴細工のように変形していたことです。もう一つは、石段の途中に人影が残っていたことです。おそらく、石段を登っている時に投下



原爆ドーム

砂川校区

清水 真治

され、その影ができたと思われます。

当時の児童も現在では、立派な大人になり各方面で活躍されていると思いますが、広島で学習したことが生かされていると信じています。